



◆除染に関する情報の共有は有意義



コープふくしま
専務理事 野中 俊吉氏

コープふくしまでは、NPO法人放射線安全フォーラム副理事長の田中俊一氏ら、専門家のご指導を受けながら、除染に関してさまざまな取り組みを続けています。たとえば、独自に考えた「我が家の除染方法」をご紹介したり、線量の高いお宅に直接伺って除染に関する相談に応じるほか、郡山市の若いお母さんたちと一緒に除染をし、線量が下がることを体験してもらっています。このほか町内会の除染作業のための道具の無料貸し出しも行っており、先日も公民館の除染にお使いいただきました。

さらに、食料に含まれる放射線の調査にも時間をかけています。こうして得られたデータは福島環境再生事務所で集約して共有し、有効に使えればと思います。事務所を拠点に、除染活動が進んでいくことを期待します。

(「福島環境再生事務所」開所記念シンポジウムの発言より)

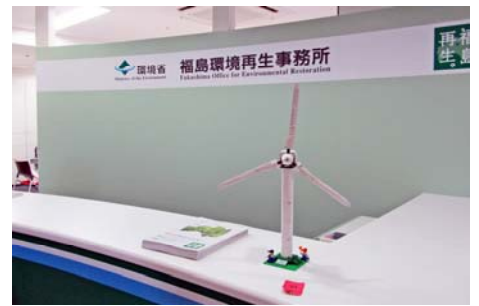
除染活動推進の拠点オープン

環境省が1月4日付けで福島市に設置した「福島環境再生事務所」の開所式と記念シンポジウムが21日に行なわれ、細野豪志環境相や佐藤雄平県知事、県内市町村長など約60人が出席、コープふくしま専務理事の野中俊吉氏はシンポジウムのパネルディスカッションに招かれました。この事務所はウェブ上の「除染情報プラザ」(2月下旬に閲覧室設置予定)とともに政府直轄の除染事業の管理と市町村による除染活動支援の拠点とされています。

パネルディスカッションでは、今後の除染活動に関して意見が活発に出されました。野中専務は、コープふくしまのこれまでの活動を報告、「行政やNPO法人など各分野の(放射能問題の)研究情報を共有できる『場』として事務所に期待します。不安を抱えて生活している住民の皆さんのために有効だと思います」と述べました。



パネルディスカッションでは福島の実情について活発な意見が交わされた。



福島環境再生事務所エントランス。

コープふくしま・組合員の交流会開催



備蓄の大切さなどが話題に。



振りをつけながらみんなで楽しく歌う。「楽しいところに人は集まってくるんです」(古瀬さん)

1月26日、年に一度コープふくしまの組合員が一堂に集まる「ワァ〜いわい交流会」が開催されました。今年で8回目、震災後初の開催となった今回のテーマは「みんな笑顔になれたらいいね」。約100人の参加者は「これからの組合員活動」「震災を踏まえて考える・これからのライフスタイル」の2つから希望するお題を選び4~6人のグループに分かれ、話し合いました。

震災後の活動や暮らしにおけるアイデアの共有はもちろん、声を出し明るく話をする時間となるようにも配慮され、「福島県内市町村ビンゴ」などのアトラクションでは会場には笑い声が。実行委員長の高瀬聡子さんは「交流会が始まった8年前は、福島にこんなことが起こるとは思ってもいませんでした。『あのときは大変だったね』と穏やかに思い返せる8年後を迎えるために、まずは笑顔を」と話していました。